

国語 一―一	第三学年及び第四学年の内容 ことわざ	名前	年	組	番
-----------	-----------------------	----	---	---	---

次のことわざの意味としてふさわしいものをあとのアからオの中から選び、( ) の中に書きましょう。

① 急がば回れ (ア)

② 石の上にも三年 (ウ)

③ 住めば都 (オ)

④ 負けるが勝ち (イ)

⑤ 善は急げ (エ)

ア 急ぐときには、遠くても安全な道を行く方が、危険な近道をするよりも結局は早く目的地に着くというたとえ。

イ 相手に勝ちをゆずるほうが、最後は自分の得になることのたとえ。

ウ がまん強く努力すれば、必ず成功するというたとえ。

エ よいと思ったことは、ためらわないですぐに行ったほうがいいというたとえ。

オ 住みなれば、どんな場所であつてもそれなりに住みよくなつてくるというたとえ。

国語 一―二	第三学年及び第四学年の内容 ことわざ	名前	年	組	番
-----------	-----------------------	----	---	---	---

次のことわざの意味としてふさわしいものをあとのアからオの中から選び、( ) の中に書きましよう。

① 聞くは一時のはじ 聞かぬは一生のはじ (オ)

② 仏の顔も二度まで (ア)

③ 石橋をたたいて渡る (エ)

④ ねこに小判 (ウ)

⑤ 飛んで火に入る夏の虫 (イ)

ア どんなにおとなしい人でも、何度もひどいことをされると、最後には怒るといふことのとたとえ。

イ 自分から危ないことに飛び込んでいくことのとたとえ。

ウ どんなに値打ちのあるものでも、その分からない者には意味がないことのとたとえ。

エ とても用心深いことのとたとえ。

オ 知らないことを聞くのはその時ははずかしいが、知らないままですると、一生はずかしい思いをすることのとたとえ。

国語 一—三	第三学年及び第四学年の内容 ことわざ	名前	年	組	番
-----------	-----------------------	----	---	---	---

次のことわざの意味としてふさわしいものをあとのアからオの中から選び、( ) の中に書きましよう。

- ① 百聞は一見にしかず ひゃくぶん いっけん (エ)
- ② 頭かくしてしりかくさず (オ)
- ③ 無くて七くせ な (ウ)
- ④ 犬も歩けばぼうに当たる (ア)
- ⑤ 二階から目薬 にかい めぐすり (イ)

ア でしゃばると思ってもみないこまったことにあったり、何でもい  
いからやってみれば思わぬ幸運にあったりすることのたとえ。

イ 思うようにならず、効きめのうすいことのたとえ。

ウ 人はだれでも、多かれ少なかれ、くせがあるということのたとえ。

エ 百回人から聞くより、一度でも自分で見たことがある方が 確か  
なことのたとえ。

オ 一部の悪さを何とか隠して、全体を隠したつもりでいるおろかさ  
のたとえ。

国語 一—四	第三学年及び第四学年の内容 ことわざ	名前	年	組	番
-----------	-----------------------	----	---	---	---

次のことわざの意味としてふさわしいものをあとのアからオの中から選び、( ) の中に書きましよう。

- ① のどもと過ぎれば熱さを忘れる (イ)
- ② 転ばぬ先のつえ (エ)
- ③ 鬼に金ぼう (ア)
- ④ えびでたいをつる (オ)
- ⑤ 帯に短し たすきに長し (ウ)

ア 強い者に武器を持たせれば、さらに強くなるということのたとえ。

イ どんなに苦しいことでも、その時を過ぎると、そのつらさを忘れてしまうことのたとえ。

ウ ちょうどでなく長すぎたり短すぎたりして、何の役にも立たないことのたとえ。

エ 失敗しないように前もって用意をすることのたとえ。

オ 小さな元手で、大きな利益を得るということのたとえ。

国語 一―五	第三学年及び第四学年の内容 ことわざ	名前	年	組	番
-----------	-----------------------	----	---	---	---

次のことわざの意味としてふさわしいものをあとのアからオの中から選び、( ) の中に書きましよう。

- ① あぶはち取らず (オ)
- ② 弘法にも筆のあやまり (イ)
- ③ 早起きは三文の得 (ア)
- ④ 立つ鳥あとをにごさず (ウ)
- ⑤ 一を聞いて十を知る (エ)

ア 早く起きると、何かいいことがあるというたとえ。

イ どんなにすぐれた人でも失敗することがあるというたとえ。

ウ 立ち去る時、後が見苦しくないように、きれいにしてから出ていくことのとえ。

エ 物わかりがいいことのとえ。

オ 欲ばって二つを同時に取ろうとして、どちらも取れなくなることのとえ。

国語 一六	第三学年及び第四学年の内容 ことわざ	名前	年	組	番
----------	-----------------------	----	---	---	---

次のことわざの意味としてふさわしいものをあとのアからオの中から選び、( ) の中に書きましょう。

① 雨降って地固まる ( ) **イ** ( )  
あめふ じかた

② 花よりだんご ( ) **エ** ( )

③ 鶉のまねをするからす ( ) **ア** ( )  
う

④ 上手の手から水がもれる ( ) **オ** ( )  
じょうず

⑤ 良薬は口に苦し ( ) **ウ** ( )  
りょうやく にく

ア 自分の能力をよく考えないで、むやみに人のまねをすると失敗  
をしつぱい  
をすることをたとえ。

イ 一度もめぐりのあつた後は、かえって物事が落ち着いてうまく行  
くことをたとえ。

ウ 人に注意されることは気持ちのいいものではないけれど、自分の  
ためになることだというたとえ。

エ 見て美しいものよりも、実際に役立つもののほうがいいことの  
たとえ。

オ どんなに上手な人でも、時には失敗をするというたとえ。

国語 一七	第三学年及び第四学年の内容 ことわざ	名前	年	組	番
----------	-----------------------	----	---	---	---

次のことわざの意味としてふさわしいものをあとのアからオの中から選び、( ) の中に書きましょう。

- ① さるも木から落ちる (オ)
- ② 笑う門には福きたる (エ)
- ③ 馬の耳に念仏 (ア)
- ④ 能ある鷹は爪をかくす (ウ)
- ⑤ 下手の横好き (イ)

ア いくら言っても、なんの効きめもないことのとたとえ。

イ 下手な人にかぎってやってみたくなるということのとたとえ。

ウ 能力が本当にある者は、やたらと人に見せたがらないということのとたとえ。

エ いつもにごやかに笑っている人の家には、自然に幸福がやって来るといふことのとたとえ。

オ その道の名人と言われる人でも、時には失敗するといふたとえ。

国語 一一八	第三学年及び第四学年の内容 ことわざ	名前	年	組	番
-----------	-----------------------	----	---	---	---

次のことわざの意味としてふさわしいものをあとのアからオの中から選び、( ) の中に書きましよう。

① ちりも積もれば山となる (オ)

② 暑さ寒さもひがんまで (ウ)

③ 身から出たさび (イ)

④ かつぱの川流れ (ア)

⑤ にがした魚は大きい (エ)

ア およ 泳ぎのうまいかつぱでもなが 流されることがあるように、ゆだん 油断をする  
と失敗するといふたとえ。

イ わる 自分から悪い原因をつくって、わる 悪い結果を招くことのとえ。

ウ さむ 冬の寒さは春分の頃まで、あつ 夏の暑さは秋分の頃までにはやわら  
いで、ちようどいい気候になることのとえ。

エ 自分ものの物にならなかつたものは、いいものに見えることのとえ。

オ どんなに小さなことでも、こつこつと積み重ねていくことで大きなものになるといふことのとえ。



国語 一一九	第三学年及び第四学年の内容 ことわざ	名前	年	組	番
-----------	-----------------------	----	---	---	---

取り組んだ日 月 日

次のことわざの意味としてふさわしいものをあとのアからオの中から選び、( ) の中に書きましよう。

① こまった時の神かみだのみ (イ)

② 弘法筆こうぼうふでをえらばず (ウ)

③ 後悔先こうかいさきに立たず (オ)

④ 泣なきつ面つらにはち (ア)

⑤ 三つ子のたましい百まで (エ)

ア 悲かなしい時ときや苦くるしい時に、さらさらに悪わるいことがおこることのたとえ。

イ いつもは、神様かみさまを信しんじていない人ひとでも、こまったときだけ神様かみさまの助けたすを求めもとめることのたとえ。

ウ 本当ほんとうにすぐれた名人めいじんは、道具どうぐの善よし悪あしとは関係かんけいなく、よい仕事しごとをするというたとえ。

エ 幼おきないころの性質せいしつは、おとなになっても変かわらないことのたとえ。

オ やってしまったことを後あとになつてくやんでも、間まに合あわなないということのたとえ。

国語 一一十	第三学年及び第四学年の内容 ことわざ	名前	年	組	番
-----------	-----------------------	----	---	---	---

次のことわざの意味としてふさわしいものをあとのアからオの中から選び、( ) の中に書きましよう。

① 鬼の目にも涙 (イ)

② ぬかにくぎ (エ)

③ 一寸の虫にも五分のたましい (オ)

④ 好きこそ物の上手なれ (ウ)

⑤ 縁の下の力持ち (ア)

ア 目立たないところで人のために苦勞や努力をすること。また、そういう人のことのとえ。

イ ふだんは心の冷たい人でも、時にはやさしい気持ちをもつこともあるということのとえ。

ウ 好きなことには熱心になるので上達も早いことのとえ。

エ やってみても効きめがないことのとえ。

オ 小さく弱そうに見えるものにも、それなりの考えや強い気持ちが  
あるものだから、ばかにしてはいけないということのとえ。